

令和3年度 教育・保育活動に対する学校評価

学校法人瀬戸谷学園 セとやこども園 園長 福與繁太郎
 学校法人瀬戸谷学園 セとやこども園 評価委員会委員長 中村 葵

1 教育目標

・誰とでも仲良く遊べる子 ・あきらめず行動できる子 ・優しく思いやりのある子 ・自分で考え工夫できる子

2 本年度の重点

<元気な子>

- ・友だちと仲良く遊ぶ
- ・好き嫌いをしないで食べる
- ・大きな声であいさつする
- ・戸外で身体を使って楽しく遊ぶ

<自立する子>

- ・基本的な生活習慣を身に付ける
- ・自分でできることは自分でする
- ・共通の目的に向かって遊び等を進める

<考える子>

- ・友だちとの関わりの中でルールを守る
- ・工夫して絵を描いたり制作したりする
- ・言葉で伝え合う

3 自己評価と学校関係者評価結果

評価点…A（十分に成果がある） B（成果がある） C（あまり成果がない） D（成果がない）

評価項目欄の①～⑩は、評価アンケートの項目数字

評価対象	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		評点	園としての反省と◎改善策	評点	評価委員の意見
教育活動	保育の計画性 ⑦⑩	B	行事の大幅変更の必要性はないと考えられるが、園児の年齢や発達に即した行事という視点から、各行事のねらいを明確にした上で、内容・運営面ともにさらなる磨き上げをしていきたい。	B	・今年度の運動会では、スूसー先生の運動遊びの内容が披露されていた。年齢に応じた運動遊びができるようになった子どもたちの自信に満ちた顔が印象深かったが、職員自己評価で「あてはまらない」の回答が3票あったのであえてC評価を投じた。 ・令和3年度のグランドデザインにはほぼ完璧に実行されているように感じた。素晴らしいことである。コロナ禍の中、行事等の展開が難しいが、できる事ならZoomなどリモート配信出来ればよい。 ・「園生活の充実」「保育の在り方・園児への対応」の成果である。 ・何が課題として潜在しているのか、園内で十分に検討してほしい。「ねらい」が共有されていないのなら、そのねらいを具現化したら改善のヒントが見えるかもしれない。
	園生活の充実 ①②	A	園生活全般に、保護者、職員ともにほぼ同じ回答傾向にあり、肯定的に受け止めている。給食について、保護者は我が子の「好き嫌い」を心配しているが、家庭では「食べない・食べられない」という場合でも、園では「食べる・食べようとする」園児が多く、保護者・職員ともに給食の意義や効果を感じている。	A	・職員の皆様のご努力が子どもや保護者に伝わっている証であると思う。このことを全職員に共有していただくことが大切かと思う。 ・給食のメニューや過ごしている時の子どもたちの表情などから改善策を検討したらよいのでは。ただし、保護者には食も教育の一環であることを認識していただく必要もある。 ・給食はもちろん、「お迎えはおやつ後にして」と孫から言われるほど、おやつも楽しみにしている様子である。
	保育の在り方・園児への対応 ④	B	園児数が少人数であることが評価アンケートの肯定的な回答の背景にあるが、一人一人に応じる保育・教育の基本姿勢は今後も堅持し職員研修も継続したい。	B	・極めて大切なことで、ほぼ満足されていることは評価に値することだと思う。
保護者との信頼関係	保護者への対応 ③	B	保護者は「職員に話しやすい」と感じている一方で、職員は「保護者へどのように話せばよりよく受け止めてもらえるか」を常に意識しているアンケート結果と思われる。 「誤解のないよう正しく伝える」ことは保護者の信頼を得る基本であり、職員が自身のコミュニケーション能力向上を常に意識するとともに、研修も重ねる必要がある。	B	(この項、特にご意見等なし)
	広報、連絡、保護者との情報共有 ⑤	B	限られた紙面や時間の中で、「園生活のどの場面を取り上げてどのように保護者に伝えるか」が重要となる。今後も、「子どもの今」を正しく丁寧に伝える努力を続けたい。	A	・地域の方々からせとやこども園だよりを見ての感想等、よく声を掛けていただき、保護者以外にも様子が丁寧に伝えられていると感じた。今後も続けてほしい。

					<ul style="list-style-type: none"> ・園だよりを拝読し感心している。また、面談を形式にとらわれず実施されている成果だと思う。 ・いつも園だよりを送っていただき有難く思っている。町内への配付は、市の広報配付日に合わせてもらえれば、町内の役員も助かる。
環境整備 保健安全	安全・安心な環境 整備 ⑧	B	<p>旧瀬戸谷幼稚園時代の園舎・園庭施設をほぼ引き継いでおり、3～5歳児用の遊具はほぼ整っているが、0～2歳児用のものは十分とはいえない。乳児用遊具は大変高価ではあるが、財務状況を見ながら積極的に整備すべき部分であると認識している。</p> <p>◎来年度予算で設置可能な乳児用遊具の検討を進める。</p> <p>◎園庭南側が中山公園と隣接するため、正門のロックだけでは防犯効果は低い。代替策として監視カメラの設置を検討する。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> ・インシデント、アクシデント、ヒヤリハットは、生活している上で、たくさんあると思われる。どんな状況でどんなことが起きたのか、どう対応したのか、すべきなのか等を公にしてもよいかと思う。関係者として知りたいし、それが安心・信頼につながると考える。 ・抽象的な表現で改善が難しいことだが、ソフト、ハード両面で検証する必要がある。
地域資源 を生かした 保育・ 教育	家庭・地域との連 携・協力 ⑥	B	<p>新型コロナ感染予防上、制約は多かったが、地域の自然や環境を生かした活動を充実させたいと考える職員は多い。今後のコロナの状況は見通せないが、感染予防に重点を置きつつ、「できる限りのことをする」姿勢で取り組んでいきたい。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> ・検討する必要がある。地元の人達や自治会、JAなどと話し合いの機会を持つことを提案する。 ・すばらしい教育理念と実践から瀬戸谷小学校も大いに良い刺激を受けている。今後も子どもたちのよりよい未来のためこども園・小学校・中学校との連携を深めたい。 ・近所にいる園児は、いつも元気よく挨拶してくれる。
	食育の推進 ⑨	B	<p>種蒔きから水やり草取りなど長期にわたる栽培活動は年少児から年長児に適しているが、この年齢は制作など他領域の活動も増えてくる。乳児は、「食べる」こと自体が食育につながり、午前おやつ・昼食・午後おやつとその機会は多い。食育の専門家には、「特別なことより給食など日常の活動を大切にすべき」との言説もある。いたずらに活動内容を広げ過ぎることなく、園児の年齢等に応じたバランスのとれた食育を展開したい。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> ・食育（食農教育）に力を入れるべきと考える。地元の人達や自治会、JAなどと話し合いの機会を持つことを提案する。
その他					<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で園に直接出向くことがほとんどなかったため、アンケート結果を参考に各項目を評価した。 ・コロナ禍の大変な去年から今年だったが、保護者と先生方の努力により無事に過ごせたことを嬉しく思っている。 ・どの設問も「あてはまる」「ほぼあてはまる」がほとんどで、その数値からすれば「十分成果がある」と思われる。「あまりあてはまらない」項目は、園でも内容は把握されていると思うので改善を期待する。なお、アンケートを記名にしている理由を教えてくださいとありがたい。

令和4年3月9日 学校法人瀬戸谷学園せとやこども園

理事長 平井 登

